

謹んで新春の御祝詞を申し上げます。

旧年中は格別のご愛顧を賜わり誠にありがとうございました。本年も何卒ご指導ご鞭達
のほど、謹んでお願い申し上げます。ことしほど見通しの暗い新年を迎えるのは初めての
ことであります。物件がない、売れない、口銭がとれない、売掛けが入らない、手形が
落ちない、ナイナイづくしの大不況の様子が色濃くなってきました。真暗闇のトンネルを
一刻も早くぬけようとあわてると、転んで怪我をしかねません。

じっとしていてトンネルを抜けることは出きませんから出口へ向って進んで行くより
他ないんですが、ここはあせらず慎重に一步一步足許をたしかめながら進んでいくことが
肝要です。皆さん気をつけて着実に歩みましょう。

元旦の朝、部厚い新聞が届きました。元旦の新聞は現代の社会的特徴に関することと、
未来への夢や可能性に関する記事が盛り沢山に掲載されています。読む方の姿勢・考えで
将来を悲観的に見るか楽観的に見るか変わってきますが、楽観的に見る方が気分が明るく
なりますし、積極的に行動するエネルギーが生まれます。高令化社会とか結婚しない女性の
増加など現代の特長も、これをうまく活用する仕組みを考えていくとどうでしょう。
両者とも肉体的能力はともあれ知的能力は優れています。活かして働ける場を提供する
ことが大切になってきます。産業によっては設備投資より人的資源活用が変化の対応やコス
ト低減につながる分野がまだ数多くあります。そうすれば所得がふえ消費需要の拡大につ
ながります。

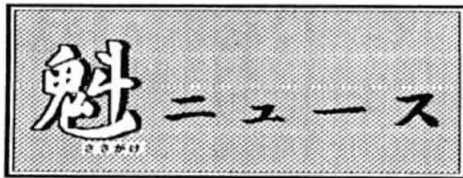
今、激増する人口に比例する地球資源の消耗にブレーキをかける運動が自然保護とか温
暖化防止といった形で拡がってきています。これらも新しい技術の開発を促進し、新材料
や新加工法を生み、又生命科学やエネルギーでも新技術が誕生し、我々の暮らしを大きく
変えると思われれます。日本はあらゆる面でその可能性を有しており、他国と比べても決し
て劣らない。特に加工技術では突出しており、必ずや新技術を生み世界人類の暮らしを豊
かにする上で大きく貢献すると信じます。日本は変らねばならないし変らざるを得ません
ただしその変革には相当時間がかかります。10年、いえ20年にかかるでしょう。今、
私達に必要なことは、目先の小さな現象に振りまわされて大きな目的を見失わないこと
です。景気が悪くてもそれは必要あつての事、倒産する会社が増えることも必要あつての事
失業者が増えるのも必要あつての事。人間が営む社会はそう簡単に沈みません。沈んでも
必ず浮かび上がってきます。淘汰と変革の時代を過ぎた時、日本を含むアジアは世界を
リードする地域として大きな存在になっているでしょう。私達は私達の子孫のため、今は
耐え変革に挑戦することが肝要であります。

族議員の如き小さな人間の吼え声など雑音にすぎず、無視して行政改革、規制緩和、
教育制度改革などに遭進して行ってほしいものです。

本年は勘忍の年と定め、ひたすらおのが仕事に精進するのみ、皆様共々無事乗り切りた
いと心から願わずにはおれません。

☆ 1 2 月の魁基準建値は 2 7 2 円 / kg です。

昨年12月の電気銅建値は1～17日280円、18～31日270円で、平均銅価は275円90銭でした。1月の電気銅建値は270円で始まりしました。したがって1月の魁基準建値は $(275.90 + 270) \div 2 = 272$ 円95銭で円未満切り捨て272円となります。従って価格帯は先月同様250円超～300円以下の欄で変わりません。



発行10年 2月 2日

暦の上ではすぐそこに春がやってくる。しかし景気は真つ暗闇の冬である。市場は閉塞感に満ち満ちている。住宅用建材市場の需要は消費税率アップ前の昨年と較べると半分程度に落ちこんでいるのではないだろうか。季節的な要因もあろうがそれにしてもひどい。3月以降になれば、動きが多少良くなるとは思われるが、大きな期待は望めない。従って只今は、資金繰りを見直し、銀行の貸し渋りに直面しても慌てずにすむよう対策を講じておくことが肝要である。滞留している売掛金の回収や在庫の縮小等も有効な対策であろう。

魁ニュース11月号で環境ホルモンの影響によりバイ貝の雌の80%が雄の性器をあわせ持っていること、雄のペニスに発育不全が数多く見られるなど、生殖機能が損われていることをご報告したが、テレビで「環境ホルモン」という言葉をはじめて知ってから強いショックをうけ、この事に強い関心を持つようになった。アメリカの科学者や科学ジャーナリスト3名の共著による「奪われし未来」（長尾力訳 翔泳社）を読む機会があり環境ホルモンの事を理解できた範囲でご紹介したいと思う。

戦後ノミヤシラミの駆除等殺虫剤として使われたDDT、変圧器をはじめ、不燃の油として潤滑剤や切削油として重宝され、燃えないプラスチック、丈夫で長持ちするゴム、水に強い漆喰、ペンキ、インク、殺虫剤と消費社会にも多用されたPCB、これ等は先進国では生産を禁止しているが（まだ生産し使用されている国もある）、残留性化学物質として自然界を汚染し、それが動物だけでなく人体にも蓄積されていき、ホルモン分泌系の繊細な作用を攪乱し、受胎から誕生後母体からの授乳で発育していく迄の間の段階で各器官の健全な発育を阻害し、不妊症、生殖器異常、精子数の減少、神経障害等様々な障害を齎していることが多くの科学者の研究報告で明らかにされてきている。ホルモンは性分化から脳の形成にいたるまで生命体の発育のコーディネーターとして重要な働きをしている。このホルモンの化学構造と上記のような残留性化学物質の化学構造が極めて良く似ているため、生命体の細胞の中のホルモンレセプターが真のホルモンとこのホルモン作用攪乱物質との見極めが出来ず、受け入れてしまうため各器官の正常な発育を錯乱させてしまうようである。今はDDTやPCBは生産が中止されているが、化学合成物質はなんと80,000種類も開発、生産されており、我々が直接間接に使用している。それ等の化学構造がすべて明らかにされることは極めて困難なことであるが、疑似ホルモン構造の物質と解明されているものがすでに5~60種類あり、その中にはプラスチックに含まれている物質もあると言われている。プラスチックはいたるところに使われているからホルモン作用攪

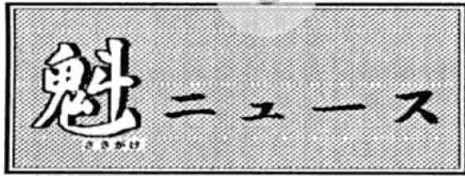
乱物質にさらされる危険性は常にあるわけである。プラスチックは飲料水から調理油にいたる、ありとあらゆる日用品に含まれている。金属缶の内側にも使われている。雨といにも使われている。子供たちの玩具にはうってつけの素材である。プラスチックのすべてが有害というわけではないが、メーカーが企業秘密を決めこんでいるため、現在出廻っているプラスチック容器がどんな化学組成になっているかは確かめようがないし、ホルモン作用攪乱物質がしみ出ているものがどのくらいあるかもわからないのが実状である。

ホルモン作用攪乱物質が、生殖能力や発育を知らず知らずの内に触れている。種全体も危機に陥れるおそれがある。人類も安閑としてはいられない。爆発的な人口情勢に直面している世界情勢からすれば想像しがたい話かも知れないが、精子数の研究を踏まえるなら環境汚染物質はすでにもう個人レベルでなく人類全体に甚大な影響を及ぼしていると言える。

それではどうすれば良いのか。対策はまだ確立されていない。政府や科学者や企業が一丸となって取り組まねばならない緊急を要する問題であるが、我々個人としては水に注意し食物やそれを調理する容器等にも注意を払って汚染物資から身を守っていくよう心掛けるより他はないのかも知れない。まがったキュウリ、虫がくってる野菜や果物を嫌わず、農薬を使ったものを求めないようにするのもそのひとつかも知れない。

☆ 2月の魁基準建値は27⁰円/kgです。

1月の電気銅建値は270円で終始しました。2月の電気銅建値は270円でスタートしました。従って2月の魁基準建値は $(270+270) \div 2 = 270$ 円で1月の価格帯と変わらず250円超300円以下の欄です。



発行10年 3月 2日

一雨ごとに春が近づいてきている。奈良東大寺で修二会の行がはじまっているが、この時分は年によって寒暖の差が激しく、古都奈良で雪景色が欠られるのもこのころであるが、ことしは暖かい日が多く、雨の日が多い。

「春の雨は花の父母」というが、雨を亨けて樹々の花芽はたしかな成長を続けている。桜の開花も今年は例年より早くなりそうだ。

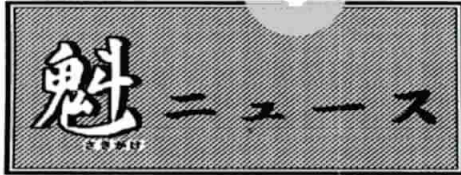
景気は最悪である。萎縮してしまっている。決算期を控えて在庫を絞っている企業が増えているため商品の動きが極端に悪い。政府の景気テコ入れ策も速効性のものはないため、4月以降も厳しい展開が続くそうである。

先輩の方々がこんな不景気は過去にない、初めてだと言われる。ということはこの不景気は単なる景気循環による不景気ではなく、構造的な変革にともなう不況であり、経済のシステムが変わっていく時代にあつて、我々自身変化すること革新することを求められているのだと自覚せねばならぬと思う。

「平成デフレ10年」説によると、あと3年すれば地価も底を打ち、資産デフレも終焉するという。まだ3年と思うか、もう3年と思うか、思い方で長くも感じるし短く感じることも出来る。我々にとって必要なことはその時をいたずらに待つことではなく、潮流を読み変化に対応する積極的行動である。未来に希望を持って愉しくやりましょう。

☆ 3月の魁基準建値は257円/kgです。

2月の電気銅建値は1～4日270円 5～9日260円 10～28日250円で平均銅価は254円73銭でした。3月の電気銅建値は260円で始まりました。従って3月の魁基準建値は $(254.73 + 260) \div 2 = 257$ 円36銭円末備切捨て257円となりました。価格帯は前月同様250円超～300円以下の欄で変わりません。電気銅建値の最安値は平成年号に入ってから平成5年10月の220円です。この時は1600\$/屯で為替は105円～110円の水準でした。現在は1650\$/屯前後為替は125～130円の水準です。ドル価格と為替水準から見て底値水準に来ていると考えられます。



きょうから日本版ビッグバン（金融大改革）が本番を迎える。ドルと円との垣根がとりはらわれた。ベルリンの壁の崩壊が社会主義国の市場経済化を促進させたようにビッグバンは海外金融資本とりわけ米国の金融業界の日本進出を促進させることは必至である。当面は低利で大量の資金を集めやすい日本に様々な金融商品売り込む戦略がとられる。銀行、証券、保険、揃ってお出ましになる。不良債権で身動きが動きぬ状態の土地も、底値で大量にお買い上げになりだしている。日本の金融業界はバブル崩壊で大きな痛手を蒙り、まだその傷の癒えぬ間に、美味しい所を海外の強力な業者に持っていかれてしまう凶式になっている。大蔵省、日銀、証券などの贈収賄事件で検察が派手に動いているが、これもロッキード事件と同じ米国発の匂いがする。今更始まったことでなく徳川幕府いやもっとさかのぼって平安朝時代から民が官へ接近し利便を得る工作をして来ていることは文献に残っていることで、今更大騒ぎするのも変な話で、これ等一連の動きは日本の金融資本システムを揺るがせ金融行政の権威を弱体化させるところに狙いがあるように思えるのである。ビッグバンと同じ頃にこんな事態を起こしているところに煙たいものがある。未曾有の大不況の様相が月を追う毎に色濃くなってきたが、かくなってからの16兆円の巨額な経済対策が、はたしてどの程度効果を及ぼすのか、いまひとつはつきりしない。過去の経済対策より大きいものということで16兆円が決定し、その細目の検討はこれかららしいが、病人も末期になるとどんな薬も効かなくなる。「つぎこめどつぎこめど景気回復せず」。そんなことになる可能性もある。それはこの不況は循環型不況でなく一大変革期型の不況であるからだ。循環型不況なら景気対策は景気回復を齎すが、構造的な不況の場合は、その効果は極めて限られてくる。したがってほんとうは膿を出し切って自然の治癒力にまかせる方が賢明でその時に対策を打つ方がより効果を発揮するのではなかろうか。これからの16兆円は遅すぎであり、また以上の理由から早すぎるとも言えよう。

☆ 4月の魁基準建値は270円/kgです。

3月の電気銅建値は2～5日260円 6～12日270円 13～19日280円
20～31日270円で平均銅価は270円45銭でした。4月の電気銅建値は270円
でスタートしました。従って4月の魁基準建値は $(270.45 + 270) \div 2 = 270$
円22銭円未満切捨て270円となります。



発行10年 5月 1日

野山は新緑に映え、木々の葉は薫風にそよぎ、花々は咲き乱れ鳥は囀り春の讃歌を唄う。自然の姿は少しも変らぬのに、私達は大不況の真っ只中、先き行きに言い知れぬ不安を覚えるこのごろである。16兆円の総合経済対策も株価や円相場に響かない。効果のほどが読めないからか、又は期待出来ないということか、とも角先きが見えてこないのである。現在の大不況の根源は戦後一貫して上昇し続け信用の基盤となってきた地価の下落である。土地担保融資が伝統的な融資形態で、地価上昇、担保力の増大、貸し出し増加、設備投資増加、と信用拡大の連鎖が日本経済発展を財務面から支えてきた。バブルも地価が高騰し、さらに上昇すると信じたことから発生した。崩壊し信用収縮で金融機関はもとより数多の企業や家庭が膨大な損失を抱えてしまった。貸し渋りも担保不足から当然で銀行からすれば批判されるいわれはないと言いたいところであろう。地価下落が続く以上、やむを得ないことである。財政構造改革を一時棚上げして減税をする。こっちが損する話でないから反対する人はいないが、2兆円でも4兆円でも消費を刺激する度合いは極めて低く、多くは貯蓄にまわってしまう。将来を見据えて真の構造改革を進める姿勢が目先きの不況対策を要望する雑音にぐらついてフラフラしている。真の構造改革を推進するためにはまず地価対策を中核に捉え金融システムの混乱を解決しなければならない。地価がバブル以前に下落した今、地価上昇を前提とした税制を全面的に改正し、景気回復まで不動産取引課税を凍結し、譲渡損失の所得的控除も実施する。恐らく減税より少ない財政負担で金融システムのしこりをほぐし、市場の流動化が進み貸し渋りの解消に繋がるであろう。デフレスパイラルで沈んでいく経済より少々インフレ気味の方が誰にとっても心地良いのである。土地のしこりをほぐすことが金融のしこりをほぐし、市場の活性化につながることを我々がもっと声を大にして主張すべきではなかろうか。ここのところ、新聞紙上で環境ホルモンの話が賑わっている。魁ニュース2月号でこの問題をとりあげたが、4/30付の日経朝刊に通産省が2000年度をめどに「化学物質排出・移動登録制度」を導入しデータの公表を義務づける法案づくりに着手すると発表されていた。化学合成物質は80,000種類も開発・生産され、それは日々増えこそすれ減ることなく、それらの中でホルモン作用攪乱物質と見做されるものが現在、約60種類ほど解明されているらしいが、それらについて現在一般に公表されていないため何が危険で何が安全なのか、まったく解らないといつてよい状態であり、又、新しい物質の開発にその検査研究が追いつかないのが現実の姿である。デンマークの医師の研究発表によると、近年成人男子の精子数は半減しているようで、出生時の奇形児が増加しているとも言われている。これらも環境ホルモンの影響でないかと疑われる。

環境ホルモンの影響は母体内での発育期間と誕生後2～3年が最も大きいと考えられ特に妊婦の場合の健康管理は胎児の発育に著しい影響を与え又、母親の食生活は母乳を通して乳児期の子供の発育に大きな影響を及ぼす。これから結婚をし子供を育てていく若い女性の方々に、是非ホルモン攪乱物質のことについて知識を深めて欲しいとお願いしたい気持ちで一杯である。

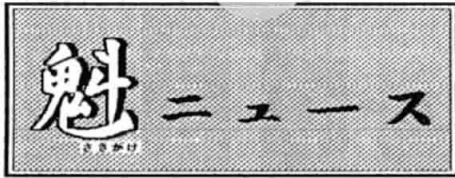
☆リフォーム屋根材「一文字はればれ」

発売開始

既設の化粧石綿スレート葺屋根を撤去せずに、そのままかぶせ葺きが出来一文字の屋根材「はればれ」を5月より発売致します。素材は大同耐摩カラーGL0.35m/mです。色は人気色3色。サイズはA型とB型があります。カラーステンレスや銅板でも出来ますが即納はカラーGLのみです。他は受注生産になります。カタログ価格表を各一部宛同封お送り申し上げますので内外へのPRをよろしくお願い申し上げます。リフォーム市場は成長市場です。どうか皆様の手で一文字葺「はればれ」を市場にご紹介、ご推奨下さいますよう謹んでお願い申し上げます。

☆ 5月の魁基準値は283円/kgです。

4月の電気銅建値は1～15日270円 16～22日280円 23～30日290円で平均銅価は277円14銭でした。5月の電気銅建値は290円でスタートしましたので5月の魁基準建値は $(277.14 + 290) \div 2 = 283$ 円57銭円未満切捨て283円となります。価格帯は250円超～300円以下の欄で前月同様変わりません。



発行10年 6月 1日

失業率が4%台に乗った。需給ギャップが拮がり、一層のリストラが必至になっている現状からこの数値が今後、益々上昇していくことは疑念をはさむ余地のないところである。このごろ、街で見かけるルンペンの数が増えたように思う。雨の日など地下街のデッドスポットに大勢がたむろしている。働いて稼がなくてもコンビニの処分品にありつけば食べることには不自由しなくて済むかも知れぬがドヤ街で寝る金もままならぬのだろうか。故紙も安くて幾ら集めても大した金にはならない。kg 2~3円だから1屯集めても2,000円位にしかない。1屯集めようと思ったら大変なことであり、これだけ下がってしまっただけでは集める意欲も下がるだろう。

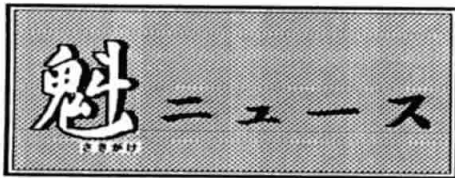
先日、白昼、大阪阿倍野の宝石時計の小売店が青龍刀をふりまわす中国人らしい5~6人の集団に襲われショウウィンドウやショウケースを割られ7億円余の商品が強奪される事件があった。今回が初めてではなく良く似た手口が以前にもあったと報道されていたが、豊かと思われている日本は、グローバルな犯罪集団から、格好の餌食と狙われている証である。外国へ旅行をされた経験がある方は、日本の治安が良好であることを実感された覚えがおありだと思うが、その日本ももはや手放しで安心しておれるところではなくなっているのではなかろうか。

少々話は飛ぶが、銀行のATM(現金自動預け払い機)の終日営業が増えてきているがこれは便利な反面、ちょっとこわいことだと思っている。刃物をつきつけ金を奪う強盗が増えるのではなかろうか。金を所持していなくてもカードを持っておれば拉致しATMで引き出すよう脅すことが出来る。簡単に金を引き出すことができるものは一切持たない方が良いのではと考えたりするのだが、こんなことを考えるのも世情の悪さを感じる故であろう。

大不況→大失業者時代→犯罪の大幅増加。我々の身辺をおだやかならぬものがしのび寄ってきている。よくよく心して身の安全をはからねばならない。大不況→大幅赤字→資本欠損→倒産も今後ますます増えていく。連鎖を防ぐため万全の対策を怠れない。うっとうしい話になったが何か明るい元気の出るニュースが欲しい。間もなくワールドカップサッカーが始まる。日本チームが1勝でもしてくれたら心の憂さも少しは吹きとぶんだが、はたしてどうだろう。テレビ観戦をしながら応援しよう。

☆ 6月の魁基準値は278円/kgです。

5月の電気銅建値は1~10日290円 11~18日280円 19~31日270円で平均銅価は276円66銭でした。6月の電気銅建値は280円でスタートしました。従って6月の魁基準建値は $(276.66 + 280) \div 2 = 278$ 円33銭円となり円未満切捨て278円になります。価格帯は250円超~300円以下の欄で変わりません。



発行10年 7月 1日

参議院選挙が始まり、選挙運動のスピーカーがかまびすしいが、政治家の口約束などいまさら聞きたいとも思わないし、誰に投票しようか考えようとも思わない。かといって棄権するのも無責任かなと少々心のひっかかりを覚えるので、他に用事がなければ投票所に足を運ぼうかな等と思っている人がほとんどではなかろうか。年々、投票率は低下する一方で政治に関心のない人が増えている。これは世の中太平であることの証しなのか、それとも裏切られ続けてきたことによる諦観や失望のなせることなのか。投票率を高めるため投票時間を午後八時迄延長するが、果たして投票率低下に歯止めがかかるか。自民党が単独過半数を確保するかより、投票率が如何なるかの方が興味ある今回の選挙戦である。

渦潮で有名な鳴門海峡にかかる大鳴門橋のそばに、大塚国際美術館（屋根に当社のタフカバーが採用された）が今春、明石大橋開通と時を同じくしてオープンした。オロナミンCやポカリスエットで名前の知れた大塚製菓の会長が私財を投じて作られたと聞かす、陶板画で古今東西の名画や歴史的文化遗产と言われる壁画などを複製し、1,000点余の作品が時代別やテーマ別に展示され、パチカン宮殿の天井画や壁画等は環境展示といって実物と同じような状態で観賞出来るよう工夫されている。明石大橋を渡れば40分ほどで大塚美術館に到着する。入館料は大人1人3,100円である。エスカレーターで地下3Fまで上がり、そこから床の矢印通りに観てまわれば良いが最初にビデオによる館内展示物のガイドを見ていくとより興味深く観賞出来る。さきに訪れた人から最低5時間はかかると聞いていたが、私の経験から言うならかなりはしょらないと無理で、私は10時に入って4時に出たが近代はとぼしながら観賞し現代は前を通るだけで又の機会にすることにした。昼食のとれる食堂は館内にあるが、ボンカレーとうどんといなり寿司しかない。弁当を用意していった方が良いかも知れない。展示物はすべて複製であるが、写真技術と20,000種の顔料で原面に限り無く近いものになっている。しかし本物を観たことのある人には、本物から受けた感動を覚えることもないし、まあそれだけの物と思われるかも知れないが、西洋の歴史や、キリスト教の布教とその時代の関わりなどの一端を垣間見ることが出来、一見の価値は充分ある。現代の若い人達に新婚旅行を海外にする人が圧倒的に多いが、できれば大塚国際美術館を前以て訪れ、本物を訪問地の美術館で観賞して来られたら、良いと思う。そのような活用をされるだけでもこの美術館の存在価値は極めて高いと思うのである。大塚美術館を訪れたらタフ・カバーで葺かれた屋根も是非見て下さい。自然に酸化して、落ち着いた灰鼠色が建造物の風格を高めています。

☆ 7月の魁基準値は272円/kgです。

6月の電気銅建値は1～17日280円 18～30日270円で平均銅価は275円90銭でした。7月の電気銅建値は270円でスタートしました。従って7月の魁基準価格は $(275.90 + 270) \div 2 = 272$ 円95銭となり、円未満切捨て272円となります。価格帯は前月同様250円超～300円以下で変わりません。



暑中お見舞い申し上げます

バブル崩壊で破綻した日本経済の更生を託され注力した橋本内閣も、先の見通しや展望を国民に説明し、理解と協力を求める姿勢が不十分で、景気の悪化は一層深刻となり、先の参議院選挙で、選手交代の止むなきに至った。

日本経済更生のシナリオを実行していくためには、国民や企業が汗や血を流すことが避けて通れないことであると思うが、今のところ我々に見えていることは、異常と言えるほどの低金利で国民の協力を求め乍ら進めている金融システムの再構築が、その仕組みの不備で6～7年も経過するに未だその終結を見るに至らず、貸し渋り等が信用不安の連鎖をもたらし、企業マインドを後向きにし、需要の減少、売り上げの低下、価格下落、失業者の増大と、デフレスパイラルの現象を呈していることだ。

崖っ淵にきた日本経済を新しい内閣が担ってスタートした。もう2～3年辛抱しなければならぬ覚悟はしているが、日本経済再生の展望が我々にも見えてくるような政策の実行を期待したい。

6日から第80回全国高校野球大会が開かれる。記念大会で今年の出場校は55校といつもの年より6校増え、栄冠を目指して熱闘が繰り広げられる。決勝戦を含めて54試合試練に耐えて栄光の舞台を踏んだ若人が、持てる力を存分に発揮し競う姿は美しい。今年も素晴らしいドラマが演じられることであろう。

群を抜いて優勝の呼び声の高い春の選抜大会優勝校、横浜をどこが破るか。春夏連続優勝のプレッシャーに克って、横浜が偉業を達成するか。高校野球ファンにとって、今年の大会は一段と興味の盛り上がる大会になりそうである。

盛夏もあと一ヵ月ほどである。体調を崩しやすい季節であるが、何事もなく無事乗り切っていきたい。最後に

皆様のご健勝と、お仕事の恙無きことをお祈り申し上げます。

☆ 8月の魁基準値は283円/kgです。

7月の電気銅建値は1～16日270円 17～26日280円 27～31日290円で推移し、平均銅価は276円81銭でした。8月の電気銅建値は290円でスタートしました。従って8月の魁基準建値は $(276.81 + 290) \div 2 = 283$ 円40銭となり、円未満切捨て283円です。魁価格帯は前月同様250円超300円以下の欄で変わりません。

懸念していたことが現実になりそうである。ロシアの経済破綻が米・欧経済にも大きな影響を与え、デフレスパイラルが全世界に広がっていくかもしれない。米国のダウ平均も最高値から1800ドルも下落した。日本のダウもバブル崩壊後の最安値を更新し、11年前の価格水準まで下がっている。伸銅メーカーの生産統計速報によると7月の月産量は9万トン割った。これも11年ぶりの水準である。11年前と言えば、昭和61年のプラザ合意によりそれまで240円位であった円の対ドル価格が150円台まで急上昇し、円高不況の直撃を受けていた頃である。今思えばこのときの不況対策のドル買い介入がのちに過剰流動性を産みバブルを齎らしたのである。アメリカが今の日本のような逆資産効果でマイナス成長に陥るようになったら世界大恐慌になるかもしれない。そんなことになったら日本は沈没してしまうかもしれない。そこまではいかないと思うが、デフレスパイラルのグローバル化で、この不況が相当長引くことははっきりしてきたように思われる。

減税や公共投資で景気が今年の暮れあるいは来春から多少回復すると目されていたが、その可能性を信じる人はもういないのではないか。昨年11月頃からの顕著な売り上げ不振が今年の8月頃からもう一段突っ込んで落ちてきた。倒産のドミノ現象がこれから日本国内を駆け巡り、いつ終焉を迎えるやら果てしなく続くのではないかと心配である。

長銀問題。住友信託との合併は大蔵省指導により進められてきたことが国会審議の場で明らかになってきた。実質破綻し資本欠損状態になってる銀行をなぜ潰さずに延命させようとするのか。それは先の大手19行を一律に国の金を使って特融した銀行救済策の失政を認めたくないからである。長銀を潰したら日本の金融システムの信用失墜で世界恐慌の引き金を日本がひくことになるともかぎらないからそれを避けるために長銀をつぶすわけにはいかないと強弁をしている。要は大蔵省も内閣も自分たちの失敗を糊塗するために、訳の分からない理屈をいっているのである。税金の無駄使いでなく有効な使い方をしてほしい。今、本当に必要なのは、貸し渋りをする銀行の代わりをするところなのだ。大蔵省も政府も国会議員も解っていないのである。

ニーズの話になるが、収入減や失業の不安から国民の財布の紐はますます固くなっている。しかし、本当に欲しいものがあれば財布の紐は緩められる。どんなものに需要があるのか、それを見いだすことが新しいビジネスの誕生につながる。閉塞した経済、長く続くであろう大不況を克服するには座して待つのではなく、本業の延長線のなかに新しいビジネスになりそうなニーズを探し当てるのが大切だと思う。

今日から二学期が始まる。秋空の下、夏休みの宿題や作品を下げて登校する子供たちを見て、活力をもらうような思いがした。安心や苦悩を抱え込んでいても何も生まれてこない。希望や意欲を持って秋を収穫の季節にしたいものである。

9月の魁基準建値は275円/kgです

8月の電気銅建値は1～5日290円 6～31日280円で平均銅価は281円50銭でした。9月の電気銅建値は270円で始まりました。従って9月の魁基準建値は $(281.50 + 270) \div 2 = 275$ 円75銭、円未満切捨て275円となります。魁の価格帯は前月同様250円超～300円以下の欄で変化はありません。



NO. 214

発行10年10月1日

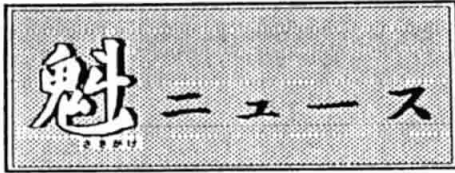
異常気象が目立つ年である。夏は東日本が冷雨で不作に、9月に入って新潟や高知に記録的な大雨があって洪水が、台風の数も例年になく少なかったが、8号が50m以上の最大風速で和歌山、奈良、三重などに大きな被害を齎らした。被害を蒙られた方には本当にお気の毒であるが、一方で仕事が舞い込んでホッとしている人も多勢いる。散々な目に合う人がいれば、一方でラッキーに出会う人もいる。世の中ってそんなものなのだ。

日本列島を覆う大不況。政府に頼っても政府に今景気をよくする力はない。借金漬けで赤字国債をドンドン発行して景気刺激策を施しても熱さましの頓服程度の効き目もない。モノが余っている。減税しても消費につながらない。50万人の社長が失業する。これが今の実態なのだ。座して景気回復を待っていても、栄養失調で餓死してしまうだけだ。豊かになってぜいたくを覚えたけど、稼ぎが大幅に減ってしまったんだから少なくなった収入でもローンの返済が続けられるよう生活の質を下げよう工夫しなけりゃどうにもならない。始末の工夫を愉しくやる。自分さえ良けりゃという考えを邪悪とし、お互いに助け合って心豊かな生活を尊ぶ。そんな考え方の原点に戻らねば、本当に住みにくい、暮らしにくい世の中になっていってしまう。

現在の日本の経済水準や生活水準は、はたしてあるべき姿に比べて低いと見るべきか高いと見るべきか。明らかに異常に高いといえよう。あるべき姿まで落ちていくし、落とすべきだと考えたら良い。それは決して今より不幸になるということとは次元の違うことである。個人においても企業においても、この真実を自覚し、昨日までとは違うことが出来れば、生き残れるし、また新たな発展も期待できよう。

10月の魁基準建値は262円/kgです

9月の電気銅建値は1～7日270円 8～10日260円 11～17日270円 18日～30日260円で推移し平均銅価は264円50銭でした。10月の電気銅建値は260円でスタートしました。従って10月の魁基準建値は $(264.50 + 260) \div 2 = 262$ 円25銭 円未満切捨て262円となります。価格帯は250円超～300円以下の欄で変化はありません。



NO. 215

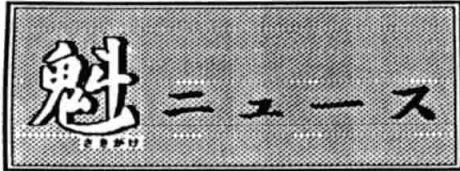
発行10年11月2日

円高の進展でデフレが加速してきた。電気銅の国際相場下落と円高の影響で電気銅建値は10月12日230円/kgとなった。これは平成5年12月以来の安値である。この時はLME（ロンドン金物取引所）の銅価は1700ドル（1ドル110円）であった。その後LME価格は上昇し平成7年1月には3000ドル（1ドル100円）の大台のり国内建値も350円/kgとなった。現在LME1550～1600ドル（1ドル115～120円）で、供給過剰の状態が解消されるめどが立たない状況から下値低迷はかなり長期になると見込まれる。

バブル崩壊後、景気はいつ回復するか予想し期待をしてきたが、どうやら日本が新世紀をどのような姿で迎えるか臆げに見えてきたように思われる。一言でかたずけるなら「縮む」ということではなかろうか。収入も縮み消費も縮む。失業者が増え貧富の差もじょじょに広がって行くであろう。長く続けてきた弥縫策の咎めが出て国も地方自治体も借金漬けで円の値打ちもガタ落ち。有利になる筈の輸出産業も海外移転による空洞化や海外諸国の競争力に敗れることが増え、かつての面影もなくなっていよう。20世紀後半の日本は繁栄と平和を謳歌したが、21世紀の日本は様変わりして貧困と混迷の暗雲が覆っているのだろうか。それとも新しい夢を抱いて前進する活力を取り戻しているのだろうか。

私達は戦後の混乱期、灰燼の中から立ち上がってきた。貧しくとも家族が力を合わせ心が豊かであった。しかし私達はいつのまにか経済の繁栄一本槍で進む社会にどっぷり身を浸し、人間として何が大切か何をすべきか見失ってきていた。豊かさだけを求める親の背中が本当に大切なことを教えていないから、今の子供は貧しさへの恐怖が強く、お金に執着する。貧しさが教えてくれることは限りなく多い。貧しさに耐えうるのは心の豊かさがあるからである。政治に期待し強いリーダーを求めたいが、この国の流れは変わらないだろう。国に期待することは詮ないことなのだ。さすれば、縮む社会のなかで企業も家庭も個人も自己改革を進め、21世紀への座標軸をたてることが必須となってきた。私達には元来変化に対応する能力がある。

★ 11月の魁基準建値は238円/kgです
10月の電気銅建値は1～6日260円、7～11日250円、12～31日230円で推移し平均銅価は238円18銭でした。11月の電気銅建値は230円でスタートしました。従って11月の魁基準建値は $(238.18 + 230) \div 2 = 234.09$ 銭円未満切捨て234円となります。価格帯は平成6年5月以来4年半ぶりに250円以下の欄で1ランク下がります。



NO. 216-1

発行10年12月1日

日曜日夜9時NHKスペシャルをみて思いました。

ご承知のとおりアメリカはここ数年株価が上昇を続け景気もまずそこそこいい線をいってるといはれています。しかしこの番組を見てアメリカは危ない、世界中がアメリカ経済の崩壊に巻き込まれるのではないかと心配になってきました。。

資本がその増殖を求める場として、ありとあらゆる物を先物市場でとり扱い、一攫千金を狙う強欲な人々が知識と駆け引きを駆使しゼロサムのパクチをしている。短時間に何千万も儲けたり損したり、天文学的巨額の取引はまさしくパクチそのもので实体经济とはまったく乖離しています。10円のマテリアルで100円の価値がある商品を作って売って90円儲けたのは、これは100円の価値即ち富を創造したのだから90円はまさしく利潤であり資本の増加になります。しかし10円で買った株を100円で売って90円の儲けが出たとしても株そのものに何の変わりもありません。90円は別の人の懐にあったものがこちらに移動したにすぎず富の増大にはなっていません。つまりゼロサムの儲けで資本が増大したとは言えません。

アメリカの株価上昇をささえているものに401Kという年金信託があります。アメリカでは年金は個人が主体で、企業は企業負担分を出しますが個人が自己責任で資産運用し企業が用意した6~8種類の金融商品などから選んで運用し59.5才以上に達したら受ける仕組みになっている。27万社2500万人の加入者がいて現在資産残高は1兆ドルを超えている。主に投資信託に運用されこれが株高を賣らしており、なかには年金に拠出してきた資産を担保に前借りして株式投資する人も多いと聴く。100円で買ったものが50円に下がる確立は非常に高く、万一そうなれば借金の返済ができなくなり破産する者が続出することになります。いま、アメリカはそんな危険性を孕んだまま株式ブームに浮かれマネーゲームに群がっていますが、この崩壊は時間の問題だと思います。

真の富の増大は新しい価値(富)の創造であり、これはやはり物作りであります。物作りより情報や金融の分野で世界一を目指しているアメリカはその施策推進のため日本にさまざまな要求をしてきています。バブル・バブルの崩壊・金融ビッグバーンすべてがその流れの現象です。

シカゴの中心街を俯瞰する映像が、鉄とコンクリートでかためられた冷たい無機質な要塞の固まりで、資本主義社会の崩壊を賣らす大悪人の砦のように私には見えました。

私達日本人はアメリカの真似などせず、真の価値(富)作りに勤勉に勤しまねばなりません。

☆ 12月の魁基準建値は230円/kgです

。

11月の電気銅建値は230円で終始しました。12月の電気銅建値は230円でスタートしました。従って魁基準建値は230円となります。価格帯は250円以下の欄で前月と同様で変わりません。

☆ ご存じですか？カパーブラウン・キャメルブラウンを。

当社は日本冶金のカラーステンレス・ナスコートを取り扱っておりますが、上記2色は茶系の明るい色で洋風の建造物に適しています。カラーサンプル帳に入っていますので今一度ご覧下さい。板金屋さんに奨めてみたくなりませんか？

本年も後ひと月足らずになりました。厳しい環境ですが明るく前向きで新年を迎えたいと思います。今年一年大変お世話になり、誠にありがとうございました。寒さ厳しき折り柄、ご自愛賜り、よき新年をお迎えくださいますようお願い申し上げます。